

達成のための方策

1 組織力の向上と開かれた学校づくりの推進

- 年度当初、組織機能充実のための共通理解（報告・相談・連絡等）により組織の活性化を図る。さらに目標を共有しつつ組織の機動力向上を図る。
- 学校関係者評価アンケートを年2回（7月・12月）実施する。その結果に基づいた評価等を行う学校運営懇談会を年2回（9月・2月）開催し、PDCAサイクルを意識して経営改善を行う。
- 学校だよりの発行やホームページの更新を行うとともに、フリー参観日を各学期ごとに位置づけ、学校の様子を積極的に発信する。
- 時間外勤務の縮減について組織的に検証を行い、学校における働き方改革を推進するとともに、教職員の意識改革を図る。

2 豊かな心を育む教育と望ましい人間関係づくりの推進

- 「道徳的価値」に向き合い、映像教材等を活用しながら、他者との議論を重視した「道徳科」の授業を展開するとともに、年1回以上はフリー参観日に道徳の授業を公開する。
- 生徒会活動（年間）や体育祭（5月）・合唱コンクール（10月）などの行事をできる限り生徒の手によって企画・運営させたり、修学旅行・校外学習の班別行動を計画・実践させることにより、生徒の自主・自治的な活動を育む場として位置づけ、活動させる。
- 日常のチャンス相談を活用し生徒理解を図るとともに、生活アンケート・WEBストレスチェック等を毎月実施し、その後に生徒全員と教育相談を行い、「いじめ」や悩みの早期発見・早期対応を行う。その際は記録を残し、SCも含めた情報の共有を図る。
- 2～3日連続して欠席する生徒に対し必ず家庭訪問を行い、長欠生徒の発生を防ぐとともに、長欠傾向のある生徒は、ケース会議を活用し、関係機関（福祉や校内支援教室等）と連携した対応を検討し実行する。

3 主体的な学びの確立と学力向上

- 各時間のねらいとまとめを明確にした授業実践を積み重ねることにより、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ノーチャイムを活用し生徒の自主性と自律性を育むとともに、授業規律を確立する。
- 朝読書をととして読書活動を推進し、学習の基盤となる言語能力の育成に努めるとともに、言語活動の充実を図る。
- キャリア教育の視点で教育活動を横断的につなぎつつ生徒のキャリア発達を支援することにより、生徒の学習意欲の向上を図る。
- GIGAスクール構想による生徒1人1台端末の利活用を推進するとともに、個別学習の充実を図る。
- 県標準学力検査の分析結果を生かし、年度当初の段階で教科部会で具体的な方策を話し合うなど、PDCAサイクルを確立する。
- 全国学力・学習調査の分析結果から課題を共有し、授業改善に繋げる。



東金中学校

グランドデザイン 2025

令和7年度
学校教育目標

『刮目』～刮目の生徒・刮目の教師～

かけがえのない自己の人生に目を開き、
たくましく自己実現していく生徒の育成

＜めざす生徒像＞ 「刮目の生徒」

- ① 学ぶ意欲を持ち、主体的に進路決定できる生徒（自主）
- ② 自らを鍛え、基本的な生活習慣を身につける生徒（剛健）
- ③ 思いやりを持ち、ともに感動しあう気品のある生徒（高雅）

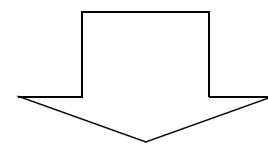
＜学校経営の理念＞

- ① 生徒第一主義→「生徒一人一人のために学校はある」
- ② 授業で勝負→「学習指導・生徒指導の基本は授業」
- ③ 組織で対応→「チーム東金中として」

＜あるべき教師像＞「刮目の教師」

- ① 人権意識を高くもち、生徒理解に努め、信頼される教師
- ② 研究熱心で、授業改善に努める教師
- ③ 率先垂範を心がけ、生徒と共働できる教師

学校生活に「満足感」が持てる学校へ



達成のための方策

4 安心・安全な環境づくりの推進

- 毎月の施設・設備点検を確実（見て・触って・負荷をかけ）に行い、修繕・改修が必要な場合は、関係機関と連絡をとり、早期に対処する。また、死角をつくらない校内外の環境を整える。
- 危機管理マニュアル等（災害・引き渡しカード・避難所の運営等）を常に見直し、家庭・地域と連携して災害に強い学校づくりを進めるとともに、危機管理体制の整備を進める。
- 年度当初に交通安全教室を開催するとともに、定期的にPTA・地域と連携して登下校指導にあたり、交通安全指導の充実に努める。
- 実効性のある避難訓練を実施するとともに、具体的な事例をあげながら日常に潜む危険を予測し、回避する能力を育成する。
- 東金中学校いじめ防止基本方針に基づき、職員の共通理解のもと、早期発見・早期対応を図る。また、道徳科等をととして人権教育を推進する。
- 学校管理下における生徒のケガや事故防止に努めるとともに、事故発生時は、管理職・養護教諭と連携（報告・相談・連絡）をとり、迅速に対処する。（ケガ等の程度にかかわらず、保護者には必ず連絡をとる。）
- 食物アレルギーに関する事故防止のため、養護教諭・栄養教諭との連携を図るとともに、生徒個々の正確な情報把握のもと、慎重に給食指導や授業・校外学習等を行う。

5 特別支援教育の推進

- 特別な支援を要する生徒に対して、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成し、一人一人のニーズに適切に対応する。
- 定期的にケース会議を実施したり、保護者（合理的配慮の申出）や外部機関と連携し、個々の生徒に適した指導・支援をする。
- 特別な支援が必要な生徒への理解を深めるとともに、特別支援教育の視点から学習指導・生徒指導を行うよう考慮し、全校体制で特別支援教育を推進していく。

6 教職員の資質・能力の向上

- ベテラン教職員はこれまでの経験から、若手教職員に教育理念や指導技術等を伝え、若手教職員はベテラン教職員から、それらを盗み、自分に合ったスタイルが醸成できる「職員室文化」を確立する。
- 生徒や保護者に対して、的確な言葉を使い、例示をあげたりして、指示や説明が分かりやすいようにし、トラブルの要因にならないようにする。
- 若手教職員を中心に積極的に要請訪問を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用を通して授業改善を図る。
- 教職員の服務に関するガイドラインや各種危機管理マニュアルを熟知するとともに、モラルアップ委員会の提言のもと、不祥事を根絶する。

＜生徒の日常実践＞

- ㊦ 挨拶
- ㊩ 時間
- ㊭ 身だしなみ
- ㊴ 掃除

＜教師の日常実践＞

◇学習指導

教材研究

魅力ある授業の展開

個に応じた指導・支援

生徒が主役の授業

◇生徒指導

正確な情報で

すばやく

誠実に

継続的に

◇危機管理(さしすせそ)

- ㊿ 最悪を想定して
- ㊩ 慎重かつ
- ㊴ 速やかに
- ㊴ 誠意を持って
- ㊴ 組織で対応する

㊴ 報告 → ㊩ 連絡 → ㊴ 相談 → ㊴ 報告